

美濃加茂インターチェンジ・サービスエリア

1/26
取材

3月19日(土) 開通!

美濃加茂インターチェンジ・サービスエリアは、ハイウェイオアシスとしての機能も持ち合わせており、インターチェンジから出ることなく平成記念公園「日本昭和村」を利用することが出来ます。

ここでは、工事中のインターチェンジ周辺の状況を西中特派員の皆さんがお伝えします。

機能的なつくりになっているサービスエリア

今まで、近くて遠く感じた、東海三県。それを結び東海環状自動車道が、ここ美濃加茂市を通ります。そして、美濃加茂市には、『日本昭和村』に隣接し、『ハイウェイオアシス』の機能も持ち合わせる、『美濃加茂インターチェンジ・サービスエリア』が誕生します。

インターチェンジは、料金所の部分。が今までよりも奥行きが広く取ってあり、ETC搭載車が快適に走れるようにつくりなっています。また、ETCを搭載していると、マイレージがたまって、夜間の通行時には、割引料金になります。お得な特典がいろいろあります。そして何より、ETC搭載車が増えると渋滞が減り、快適にドライブを楽しむことができます。



藤澤さんからインターチェンジについての説明を受ける、右から山田さん、岩崎さん。



撮影した写真を確認する福地さん。



洞口さんからサービスエリアの店舗についての説明を受ける、左から岩崎さん、山田さん。



トイレの天井はヒノキの間伐材で造られており、木の香りが漂います。

※マイレージ…通行料金に対しポイントが付与され、累計ポイントにより還元額が決まります。4月1日から始まる割引制度の一つです。

サービスエリアは、太田宿をモデルにした古くからの知恵と新しい技術を融合した、機能的なつくりになっています。サービスエリアの店舗とトイレをつなぐ回廊は、雨天でも傘を差さずに行き来することができます。また、サービスエリアの店舗とトイレは、『日本昭和村』と似た外観にしたことにより、周りの景観に似合った、機能的で、長いドライブでたまった疲れをいやしてくれる空間になっています。サービスエリア内は、軽食・飲食が販

売される予定です。

東海環状自動車道が開通することにより、名古屋中心部を通る東名高速道路などのバイパス機能の役割をし、渋滞を回避することができます。そして、渋滞していた車が分散され、二酸化炭素が削減し、環境にも優しい道路となっています。

開通後、東海環状自動車道を利用して、『愛・地球博』へ行くもよし、『花フエスタ2005ぎふ』へ行くもよし。皆さん、一度利用してみたいか

突撃インタビューその①



日本道路公団 中部支社 岐阜工事事務所 施設第二工事長 藤澤久司さん

岩崎さん 実際に造ってみてどうでしたか？

藤澤さん 地図に残るような仕事をしております、自分の仕事に誇りを持っています。道路を造る段階では、さまざまな問題が発生します。しかし、それを苦労だと思っただことはありません。問題を乗り越えた時、新たな喜びが生まれるのです。美濃加茂インターチェンジ・サービスエリアでの問題は、この付近が岩であり、建物などの基礎を造るため、岩を砕く作業に時間を要したことです。

岩崎さん 1日の平均交通量はどのくらいですか？

藤澤さん インターチェンジ区間によって異なりますが、大きく分けて、美濃関ジャンクションから土岐ジャンクションで日平均8,000台、土岐ジャンクションから豊田ジャンクションで日平均14,000台を見込んでいます。

突撃インタビューその②



㈱美濃加茂ファーム 取締役 洞口勝則さん

岩崎さん サービスエリアの1日当たりの利用者はどのくらいですか？

洞口さん 1日の交通量や、バスでの利用者などを考慮して、1日約3,000人の利用者を想定しています。休日と平日では、利用者の数も違ってくるとは思います。が、平均するとそのぐらいの人数は、利用していただきたいと考えています。

岩崎さん 店内にはどんな物が並びますか？

洞口さん 軽食を主体にした食べ物、自動販売機を並べての飲み物外の軒下でのファーストフードの販売、また、テントを張って、美濃加茂市を中心とした地元でとれる野菜などの特産物の販売、県内各地域の特産品の販売も行います。当然、お菓子などの販売もを行いますし、赤ちゃんのおむつなども販売します。

西中特派員

文：山田寛菜さん
写真：福地亜実さん
インタビュー：岩崎宇宏さん

新時代の幕開け
Special Edition